

2.2 ネコカリシウイルス

試料No.	前処理等	対照試験				判定 <sup>注1</sup>	log(Vc) <sup>注2</sup>	抗ウイルス活性値: Mv <sup>注3</sup> (参考情報)
		洗い出し液の細胞毒性の有無	洗い出し液へのウイルスの添加回収試験 回収量(PFU/mL) の常用対数	標準布との差	標準布との差			
①	原品	無	1.40	1.0	不成立	<2.30	>3.6	
		無	2.42					
	標準布(綿100%、白布)							
			接種直後のウイルス力価(PFU/試験片)の常用対数: log(Va)				5.90	
			1時間静置後のウイルス力価(PFU/試験片)の常用対数: log(Vb)				2.30	
			減少値: M(試験成立条件: 減少値 ≤ 1.0)				0.4(成立)	
			接種ウイルス液のウイルス力価(PFU/mL)				1.1E+07	

注1: 対照試験の成立条件は細胞毒性が無く、標準布との差が0.5以下であること。  
 注2: 抗ウイルス加工布の1時間静置後のウイルス力価(PFU/試験片)の常用対数。  
 注3: 宿主細胞の供試ウイルスに対する感受性の著しい低下が認められたため、抗ウイルス活性値は無効です。

試験方法: JIS L 1922:2016(ISO 18184:2014、準用)、準用  
 依頼者の指示により、接触時間を1時間に変更しました(標準の接触時間は2時間)。

ウイルス力価の定量方法: プラーク法

試験で使用したウイルスの種類[宿主細胞]: A型インフルエンザウイルス(H3N2) ATCC VR-1679  
 [MDCK細胞 ATCC CCL-34]  
 ネコカリシウイルス(F-9) ATCC VR-782  
 [CRFK細胞 ATCC CCL-94]

試料:

①

以上

## ネコカリシウイルス【ノロウイルスの代替】の抗ウイルス性試験 (カケンテストセンターにて実施)

試験方法: JIS L 1922:2016(ISO 18184:2014、準用)、準用

通常は接触時間が2時間の試験を、1時間に短縮して実施

ウイルス力価の定量方法: プラーク法

試験で使用したウイルスの種類[宿主細胞]: ネコカリシウイルス(F-9) ATCC VR-782  
 [CRFK細胞 ATCC CCL-94]

1時間試験でもウイルスの不活化は下記のように確認されたが、酸化作用が高いため、同時に宿主細胞まで分解してしまい、試験としては不成立という結果になりました。

イオニアミスト 検証試験	(常用対数表示)		(理論上のウイルス数 【=10 <sup>log(V)</sup> 】)		理論上の ウイルス減少率
	接種直後	1時間静置後	接種直後	1時間静置後	
ネコカリシ ウイルス力価	log(Va)=5.90	log(Vb)=2.30	794,328	200	99.974 %